

大阪・関西万博に行きました

営業本部長
水之浦 英樹



2025年3月号「私が思う2025年の主な出来事」に、「大阪・関西万博が開幕しますよ！」と書きました。「この機会に是非に行きたい！」とは思っていたところ、たまたま友人からお誘いを受けて6月6日に行く事になったのです。

チケットもなんとか自分で調べながら携帯電話で取得出来ました。それからパビリオンの予約抽選を友人がしたのですがなかなか取れず、なんと第1希望から第5希望まですべて落選となりました。ちなみに、第1希望「PASONA NATUREVERSE」、第2希望「日本館」、第3希望「大阪ヘルスケアパビリオン」、第4希望「ガスパビリオン」、第5希望「PASONA NATUREVERSE」でした。「おいおい!! 抽選すべて落選して行ったところで楽しめるのかな…」と思いながら、当日を迎えたのです。

大人4名で行ったのですが、行く手段を色々考えながら、最終的には車で近辺まで行って、大阪メトロの電車で夢洲まで行く事になりました。ちなみに、車は大阪府港区の弁天町駅周辺の駐車場に置き、24時間駐車1,500円でした。駅周辺のスーパーでご飯ものや、パンなどを買っておきました。

それから大阪メトロの電車で4駅進めば夢洲駅に着き、すぐに東ゲートに到着しました。時間的にお昼12時頃に入場ゲートに行ったのですが、込んではいたもののスムーズに入場出来ました。

まずはお土産を買いに寄りました。それは帰りに混む前に済ませたかったからです。買った商品はゲート近くに荷物を預かってくれるところが在り、有料ですが預けておくのがお勧めです。

「さあ、ようやくパビリオンを楽しむぞ!」となり、まずはフランス館に並びました。1時間ほど並びましたが、並んでいる間に先ほど購入したご飯ものやパンで腹ごしらえをして時間を有効に使いました。

フランス館の目玉は、ルイ・ヴィトンのトランク84個を配したライブラリー空間、ディオールの「バー」ジャケットなどの展示がありました。洗練・職人技・歴史ロマンの三拍子がそろった完成度でした。写真や映像越しでは伝わらない審美性と質感があります。大阪万博を訪れる際は、ぜひ時間に余裕を持ってフランス館を体験してみてください。

細かく言えば、ロボット&モビリティステーションや空飛ぶクルマステーション、ガスパビリオン（自由入場）もすんなりと見学出来ました。

後は、サウジアラビア館も予約なしで入場出来ました。幻想的な「砂漠の宮殿」のような建築デザインが特徴。未来都市「NEOM」の大型模型とARシミュレーション。アラビア書道アート、伝統楽器のライブ演奏、衣装体験など、多彩な文化体験を提供してくれました。個人的には中庭のサウジ広場で色とりどりのプロジェクションマッピングのショーが開かれていたのが印象深かったです。

なんやかんやで夕方になり、大屋根リングに登り涼しい風に吹かれながら、一周は出来ませんでしたが、すごい木造建築で常に圧倒されました。そうしているうちに、よしもとwaraii myraii館で多彩なライブショーが開催されていて座りながら楽しみました。

夜になり、パビリオンの並びも落ち着いてきたので、最後にスペイン館を見学しました。中に入ると、雰囲気は一変。まるで深海のような世界。綺麗な地球儀が印象的でした。巨大スクリーンで現代アート映像や舞台芸術イベントが楽しめます。海に関する技術や風力発電などの展示。これは3Dホログラムで、なんとも不思議な感じで、映像が宙に浮いているように見えました。

そして帰り際に1,000機のドローンショーを見ながら帰路につきました。非常に有意義な時間を過ごしました。歩き疲れはしましたが、行って良かったと思っています。

ただ1点残念な事は、前日からウォータープラザの海水から基準値を超えるレジオネラ属菌が検出され、水上ショーが中止になってしまった事が心残りとなりました。1日では全然回れませんが、皆様も未来社会を体験できる絶好の機会です！事前準備と当日の戦略を駆使して、世界中の人々と交流しながら、最高の思い出を作ってみませんか？

東京小旅行

リビングサービス課
大森 力

今回、とあることがキッカケとなり東京小旅行をすることにしました。旅行の時期は初夏でしたが、最高気温はすでに34℃、暑い中東京の中心部を巡る一日を敢行しました。銀座、築地場外市場、スカイツリー、そして古き良き日本の面影を残す浅草と、魅力的なスポットを巡り、東京の奥深さに触れることができました。

旅の始まりは、日本を代表する高級商業地、銀座から。午前9時半、まだ人通りもまばらな銀座中央通りは、その名の通り、まるでファッションショーの舞台のような様相でした。また、途中に伝統的な和の外観にオフィスビルが融合した歌舞伎座もありました。歴史と最新のトレンドが融合するこの街並みは、銀座ならではの洗練された雰囲気がありました。

次に向かったのは、食の宝庫として名高い築地場外市場です。銀座からほど近い築地は、場内市場が豊洲に移転した現在も、その活気は衰えることがありませんでした。午前10時過ぎに到着すると、すでに場外市場は国内外からの観光客でいっぱいでした。新鮮な魚介類を扱う鮮魚店、玉子焼き専門店、乾物屋、青果店など、ありとあらゆる食の専門店が軒を連ね、威勢の良い掛け声が飛び交っていました。

ここでは、食べ歩きが醍醐味の一つで、香ばしい匂いに誘われ、まずは行列のできる玉子焼き店で焼きたての一品を頂きました。甘すぎず、だしの旨みが広がるその味はとても美味しかったです。その後うなぎとホタテの串を頂き、またたくさんの新鮮な魚介類の中から好きなモノだけチョイスするスタイルの屋台があり、サーモンとカンパチのお刺身、そしてビールを頂きました。思わず足を止めてしまう、活気あふれる市場の雰囲気の中で、旬の食材を味わう体験は非日常的で、狭い路地を縫うように歩き、様々なお店を覗きながら、東京の食文化の豊かさを実感できました。

午後の日差しが強くなる頃、東京の新たなランドマーク、東京スカイツリーへと向かいました。実は過去にも訪れたことがあり、9年ぶりです。地下鉄を乗り継ぎ、スカイツリー駅に降り立つと、地上634メートルその圧倒的な高さに何回来ても驚かされます。

まず天望デッキ（350m）へと昇りました。エレベーターはあっという間に高層階へと到着し、扉が開くと同時に目の前に広がるのは、絶景のパノラマビューでした。さらに100m上へ、今回は昇らなかった天望回廊（450m）へも昇りました。天気は晴れて東京の街並みがまるでミニチュアのようにも見えました。あいにく富士山は霞んで見えませんでしたが、ビル群の間隙からは、上野公園の緑や、皇居の広大な敷地も確認でき、東京がいかに広大で多様な顔を持つ都市であるかを再認識させられました。

スカイツリーでの絶景を堪能した後、今回の旅の締めくくりとして、日本の伝統と歴史が息づく浅草を訪れました。雷門の巨大な提灯をくぐると、そこはまるでタイムスリップしたかのような別世界で仲見世通りには、様々なお土産物屋や食べ物屋が軒を連ね、活気ある声が響き渡っていて、情緒あふれる通りを散策しました。やはり外国人観光客が多く、日本の文化に触れ、喜んでいる姿を見るのもまた楽しかったです。仲見世通りを抜けると、いよいよ浅草寺の本堂が見えてきました。線香の煙を浴びて健康を願い、本堂内で手を合わせました。すぐ横では五重塔があり歴史を感じました。古くからの歴史を持つ浅草寺と、その周辺に広がる昔ながらの街並みは、東京の持つもう一つの顔ではないかと思いました。

今回の東京小旅行は、日本の伝統文化から最先端の景色まで、東京の多様な魅力を存分に味わうことができました。改めて、この街が持つ奥深さと、訪れるたびに新しい発見があることに感動しました。次に東京を訪れる際は、また新たな一面を見つけに行きたいと思います。皆さんもぜひ、自分だけの東京の楽しみ方を見つけて、素晴らしい旅を体験してくださいね！

